

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立大山高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 教務主任＝事務局長
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任 生活指導主任、進路主任、保健主任（計7名）
- (4) 外部委員の構成
PTA会長、地域代表2名、学校医（計4名）

2 令和2年度度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 第1回 令和2年7月 書面開催
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の委嘱、令和元年度学校経営報告、令和2年度年度学校経営計画
- (2) 第2回 令和元年11月 書面開催
学校運営報告（教務部、生徒部、進路部、保健部）、学校評価アンケートの項目、実施方法
- (3) 第3回 令和2年2月 書面開催
学校評価アンケートの分析・評価、次年度の課題、学校運営連絡協議会実施報告の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 評価観点 「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期及び対象
 - ① 12月上旬～1月上旬に実施
 - ② 回収率 生徒 88.0% 保護者 42.8% 教職員 100.0% 地域向け 55.0%
- (3) 評価項目 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、ライフ・ワークバランスをもって評価をした。
生徒（10項目）、保護者（11項目）、教員（10項目）、地域（5項目）
- (4) 評価結果の概要
 - ① 生徒の約90%が、授業や行事で活躍できる用意がされていると感じている。
 - ② 生徒の100%が、教員とのコミュニケーションの取りやすさを感じている。
 - ③ 生徒の約92%が、大山高校定時制に入学してよかったと感じている。
 - ④ 保護者の回収率が昨年9.3%から42.8%と大きく改善した。
 - ⑤ 保護者の67%が、生徒が中学の時よりも楽しそうだと感じている。
 - ⑥ 保護者の89%が生徒を大山高校に入学させて良かったと感じている。
 - ⑦ 地域アンケートにおいて、学校生活の様子が分からないとの回答が多数である。
「ホームページについては必要な者が閲覧するものであり、用もないのに見ることはない」との回答を数件いただいた。
 - ⑧ 「ライフ・ワークバランス」の積極的な取り組みについて
今後もホームページ等を活用しながら、検証を続ける。
- (5) 評価結果の分析・考察
 - ① 生徒の主体的な学び、対話的な学びを継続する一方、コロナ禍によるリモートによる学習も推進されており、生徒の学びのスタイルが大きく変換してきている。また今年度は、多くの行事が削減されたが、オリパラ教育や地域研究プロジェクト、モザイクアートなどの活動を中心に生徒の活躍の場を提供することができた。
 - ② 生徒・保護者からおおむね肯定的な回答を得たが、地域住民の学校理解・関心が進んでいない。
 - ③ 保護者・地域住民がわからない、答えられないような設問を改善する必要がある。
 - ④ 地域行事へ生徒を派遣し、学校と地域が一体となった教育活動を推進する必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人と会うことが大幅に制限された中、書面開催ながら3回の協議会を行うことができた。学校評価アンケートを実施することができ、生徒・保護者・教員・地域住民の認識の違いを知ることができた。一方、書面開催により、協議員内での活発な意見交換ができず、協議会のシステムを十分に活用することができなかった。

5 学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ① 年度当初の全校集会、PTA総会及び保護者会を活用して生徒・保護者に、教育方針を周知する。
- ② HPを年35回以上更新し、生徒・保護者、中学生及び地域住民に対して学校の取組を公開することで開かれた学校づくりを行うとともに、生徒募集対策につなげる。また、地域のボランティア活動等に積極的に参加し、教育活動について理解を深めてもらう。

(2) 学習指導

授業公開・参観を実施し、具体的な意見を元に、教員の授業力の向上を図る。また、「生徒による授業評価」や「相互授業参観」「校内研修」に基づく研修を実施し、授業の改善・教材の工夫を継続する。

(3) 特別活動

学校行事、部活動及び生徒会活動の参加率を向上させるための工夫及び進級規定の更なる整備を行う。

(4) 生活指導

- ① 生徒の社会性やルール観は向上している。
生活指導の基本的な決まりを、機会ある毎に、生徒に周知徹底させる。
- ② 授業態度や生活規律の維持のために、校門指導、個別指導等を今後も継続し、ホームページやアンケートを通して伝えることで、定時制課程の教育活動への理解を深めてもらえるよう努める。

(5) 進路指導

- ① 4年間を見据えたキャリア教育の全体計画を周知し、進路ガイダンスを組織的に推進する。
- ② 生徒・保護者との三者面談等を行い、個に応じた進路指導を行う。進路決定率を改善させる。
- ③ 今年度の改善点を踏まえ、進路指導の内容を更に充実させる。

(6) 健康・安全その他

- ① 保健全体計画の組織的な推進、地域の医療機関との連携により、適切に健康・安全指導を実施する。
- ② 防災教育を推進し、生徒に「自助」と「共助」の精神を育む。災害発生時に徒歩で帰宅する経路を認させた。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員数 4名

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の数

そう思う	多少そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
2名	1名				1名	

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 企画調整会議 0名 職員会議 0名

8 その他

- (1) 令和3年度も、副校長1名、教員7名、養護教諭1名の9名体制の予定である。ライフ・ワークバランスを踏まえ、適切な組織運営を行う必要がある。
- (2) 保護者への連絡手段の一つとして、学校ホームページの活用が不可欠であり、今後も運用の工夫が必要である。